



岡本一平 (1886-1948)
Ipppei Okamoto (1886-1948)



2

1



3

4

- 1. ロンドン軍縮会議の取材に出発する一平(左)と妻・かの子、長男・太郎(右) 1929年
 - 2. 白川町三川の漫俳句碑の前で 1947年
 - 3. <あたたか> 絹本着色
 - 4. 機関誌『漫風』第六号
 - 5. 主を失った書斎
 - 6. かつての居宅・糸遊庵(中山道会館敷地内)
- 写真1・5は岡本太郎記念館蔵(川崎市岡本太郎美術館寄託)

大正・昭和に活躍した漫画界の開拓者。東京朝日新聞に務めた一平は、鋭い視点で多様な出来事や生活感情を見抜き、機知に富んだ戯画と短文で表す「漫画漫文」を手がけ、絶大な人気を博しました。

戦中、岐阜県加茂郡西白川村(現白川町)に疎開した一平は、川柳と狂俳の要素を含めつつ五七五で人情を詠む「漫俳」を提唱します。1946(昭和21)年の加茂郡古井町(現美濃加茂市)への転居後、機関誌『漫風』を創刊する他、地域の文化人たちと交流し、講演会を開催するなど多彩な活動を展開しました。

1948(昭和23)年10月、62歳で急逝した一平の葬儀には、長男で芸術家の岡本太郎や著名な漫画家たちが東京から駆け付けました。



5

6